

第 64 回リンダウ・ノーベル賞受賞者会議(生理学・医学関連分野)

所属機関・部局・職名: 筑波大学・下田臨海実験センター・研究員

氏名: 山本 遼介

1. ノーベル賞受賞者の講演を聴いて、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

まず、全体の印象としてノーベル賞受賞者の方々は純粋にご自分が興味のある問題を長い時間をかけてでも解く努力をしてこられ、遂には成功されたのだと強く感じました。多くのノーベル賞受賞者の方々が講演や Discussion において我々若手研究者に「自分が本当に興味があり、知りたいと思う現象を研究対象としなさい」と強調されていました。講演を拝聴させて頂き、ノーベル賞受賞者の方々の自己のテーマに対する強い愛着と、問題を解決する為には苦勞を決して厭わない屈強な意志を感じ取ることが出来ました。講演の内容は、ご自身がノーベル賞を受賞されるきっかけとなった研究の一連の流れを物語的に語る方から、ご自身の最新の研究成果について深く掘り下げて話される方もいました。ノーベル賞受賞のきっかけとなった研究を振り返って語られる受賞者の方々の物語はどれも面白く、聴いていて心が躍りました。また私は、会議に参加する以前には、講演をされるノーベル賞受賞者の方々の大半がご自身の受賞のきっかけとなった研究の話をするのだろうと漠然と考えていたのですが、逆に大半の受賞者の方々が現在のご自分の研究の最新データを話されるのには驚かされました。やはり、ノーベル賞を受賞されてからも決して知的に満足されることは無く、好奇心が旺盛な方々ばかりで圧倒されました。「自分が知りたい現象の研究を続けていたら、何時の間にかノーベル賞を受賞していた」という趣旨のご発言も何名かの受賞者の方々がされておりましたが、常にご自分の興味がある現象を追究し、人類の知の財産を築き上げ、科学の為に人生を捧げられている姿を見て、とても感銘を受けました。印象に残った講演として 2 日目の J. Michael Bishop 博士の癌遺伝子の発見の物語が本当に素晴らしかったです。ご自身の研究成果だけではなく、様々な癌原遺伝子や癌抑制遺伝子、そして癌を引き起こす多様な変異原の発見など、癌研究の歴史を一挙に話して下さい、本当に圧巻でした。また、5 日目の Oliver Smithies 博士の講演は「Where Do Ideas Come From?」という演題だったのですが、ご自身の幼少の頃の話からノーベル賞を受賞されるまでの流れをユーモアたっぷりに話して下さいました。また、約 60 年前のご自身の実験ノートのスライドを映されて、その時の研究結果に対してのご感想を仰っていたのにも感銘を受けました。Smithies 博士は殊にパソコンに電子データを保存するのでは無く、実験ノートに記録を残しておく重要性を強調されていたのが印象的でした。そして、日本でも話題になりましたが、2 日目の Randy Schekman 博士の講演では、博士が名指しで幾つかの学術誌の体制を批判し、Impact Factor の弊害を語っておられたのが印象的でした。とある国では論文が掲載された雑誌の Impact Factor の値によって報賞の額が決まるという事を仰っておられて少し衝撃でした。Schekman 博士は Open Access Journal の種々の利点を解説され、既存の学術誌の商業主義から離れた科学の推進をとても強調されていました。上記 3 名の方々以外の講演もどれもが素晴らしく、本当にこのような機会を与えて頂いたことに感謝しております。

2. ノーベル賞受賞者とのディスカッション、インフォーマルな交流(食事、休憩時間やボート・トリップ等での交流)の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。〔全体的な印象と併せて、特に印象に残ったノーベル賞受賞者の具体的な氏名(3名程度)を挙げ、記載してください。〕

講演以外でもノーベル賞受賞者の方々とお話をさせて頂く機会が多々ありました。ノーベル賞受賞者の方々との Discussion では、ノーベル賞受賞者の方々もリンダウ会議に特別な思いがあるようで、若手研究者との議論を本当に楽しんでいらっしやるようでした。また、ノーベル賞受賞者の方々には皆様、芯が通ったご自分の考えを持ち、科学に対して真摯でいらっしやる方達ばかりであり、若手研究者との会話や議論の中で時に厳しいご指摘をするのも度々目にしました。ですが、それは未来の科学を担う若手研究者を育むと同時に、ご自身でも本当に科学の将来と人類の幸福を考えていらっしやるからだと思っています。Panel Discussion では4名ほどのノーベル賞受賞者の方々が会場の若手研究者と一緒に特定の話題に関して議論をするのですが、和やかなムードの中、時に若手研究者の質問に対して厳しい指摘があったり、ノーベル賞受賞者の方達の間でも意見が割れたり、とても刺激的なプログラムでした。インフォーマルな交流時においては、Discussion の際に時に厳しい一面も見せた方々も含めて皆様とても親しみやすく、一緒に写真を撮って頂いたり、食事の席をご一緒させて頂いたりしました。4日目の Discussion で私は Hamilton O. Smith 博士のセッションに行き、ほとんど一番前の席に座ったのですが、博士は微笑みながらご自身の幼少時代からノーベル賞を受賞された制限酵素の発見まで、そしてゲノムプロジェクトで著名な J. Craig Venter 博士との現在のプロジェクトについて胸躍る話をして下さいました。本当に優しそうな方で、私がほぼ最前列に座って拝聴させて頂いていたこともあり、博士と目が何回も合いましたが、その度に微笑んで下さり、とても嬉しかったのを覚えています。また、立ち見が出るほど大人気だった Oliver Smithies 博士の Discussion にも5日目に参加致しました。ある若手研究者が博士に「博士はご自分のキャリアの中で研究に退屈されたことはありますか?」という趣旨の質問をしたのに対して、「勿論、あるに決まっている。研究者誰でもそういう時はあるものだ」と即答されたのには少し驚かされました。ですが続いて「退屈するということは自分が楽しいと感じる現象を研究していない証拠だ。退屈するようになったら即座に研究テーマを変えなさい」という趣旨のことを仰いました。上記しました通り、他のノーベル賞受賞者の方々も研究テーマ選びの重要性について強調されておられましたが、その中でも Smithies 博士は特に「自分が楽しいと思う現象を研究対象にしなさい」と何度も強調されておられました。5日目の夕食も Smithies 博士のテーブルに同席させて頂いたのですが、Smithies 博士の真横に座られた日本人女性の方の隣の席でした。私の無知故に本当に恥ずかしかったのですが、私の隣に座られた女性の方は Nobuyo Maeda さまで、何と Smithies 博士の奥様でした。Maeda さまも私が日本人であることに気が付かれ、出身地・研究内容・ご自身の経歴・博士との出会いなど本当に優しく色々とお話して下さいました。また、レクリエーションのボート・トリップでは Thomas Steitz 博士と短時間ですが直接お話が出来ました。昔、University of Wisconsin-Madison におられたリボソーム研究の大家、野村眞康先生のことなどについてお話ししました。本会議期間中のノーベル賞受賞者の方々の講演にも、山極勝三郎先生をはじめとする多くの著名な日本人研究者の方々のお名前が出てきて、とても嬉しかったのを思い出します。日本発の研究をノーベル賞受賞者の方々が講演で引用されているのを見て、本当に微力ではありますが私も日本発の研究をいつかは海外へと発信したいと考えておりましたので、大きな励みとなりました。

3. 諸外国の参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

諸外国からの参加者との会議期間中の交流で特に印象的だったのは、他国の参加者の方々がとても友好的であり、全く物怖じすることなく向こうから非常に積極的に自己紹介・研究の話・自分の将来の展望・自国の文化などについて私に話しかけてきてくれることでした。私は会議のメイン会場からバスで15分ほどの民家兼ロッジのような場所に会議期間中宿泊させて頂いたのですが、バスの停留所での待ち時間は勿論のこと、会場への行き帰りのバス内や食事時、時には会場を歩いているだけでも他国の参加者の方々からどんどん話しかけられ、様々な話題について会話をすることが出来ました。私も自分から積極的に他国の参加者の方達に声をかけるよう努めました。こちらから話しかける前に向こうから話しかけられることの方が圧倒的に多く、諸外国の参加者の方達の「様々な人と会話をし、自己の知識と研究への意欲を高め、研究者として成長しよう」という積極的な熱意には圧倒されました。自己を振り返りまして、私も様々な国の人達ともっと積極的に交流し、自己の知識と研究への意欲をこれまで以上に高めなければ、と非常に良い反省点となりました。また研究以外でも、他国からの参加者の方達と、趣味や家族の話で盛り上がりました。私は大学で南米音楽を演奏するサークルに属しておりましたので、ペルーやメキシコからきた参加者の方々に私がかつて演奏した南米フォルクローレの曲名を言うと「何で日本人なのにそんな曲を知っているの!？」という風と一緒に歌ってくれたりして、とても喜んで頂きました。

4. 日本からの参加者とのディスカッション、インフォーマルな交流の中で、どのような点が印象的だったか、どのような影響を受けたか、また自身の今後の研究活動にどのように生かしていきたいか。

日本からの参加者の皆様も非常に友好的かつ積極的な方達ばかりで、会議期間中での交流で多に刺激を受けました。日本からの参加者の方が Discussion でノーベル賞受賞者の方に活発に質問をする姿や、諸外国の参加者の方々と自己の研究について積極的に非常に密度の濃い議論をしているのを見て、やはり上記しました通り「自分も更に積極的に様々な国の人達と交流をして自己の知識と研究への意欲を高めなければ」と反省すると同時に「日本にこんなにも研究への意欲と意識が高く、積極的でありながらも、とても友好的な若手研究者の方々がいるのだ」という事実で改めて気付かされ、嬉しいと同時にとても幸せな気分になりました。皆様、本当に自己の研究に情熱的な方達ばかりで、研究の話をするだけでとても胸躍りました。今後もソーシャル・ネットワークなどを介しまして同窓会的な繋がりを保つと同時に「いつか一緒に共同研究などをしてみたい」と強く思いました。会議最終日の6日目には日程が全て終了した後にリンダウ島の歩道沿いの綺麗なレストランでワールドカップのドイツ vs フランス戦を観戦しながら数名の方達と夕食をご一緒したのですが、研究の話は勿論、研究以外の日常の悩みや日本の現状などについて相談に乗って頂いたり議論したりして、とても良い思い出となり、いつの日かの再会を約束して帰路に就きました。

5. その他に、リンダウ会議への参加を通して得られた研究活動におけるメリット、具体的な研究交流の展望がもてた場合にはその予定等を記載すること。

リンダウ会議に参加をさせて頂き本当に様々な刺激を受けましたが、私が得た中で最大のメリットは「研究に対する情熱とテーマの選び方」だと思います。ノーベル賞受賞者の方々の講演を拝聴させて頂き、受賞者の方々はどの方も本当に自分が知りたいことを、困難があっても純粋に情熱を持って突き詰められていったことが分かりました。上記しました通り、多くのノーベル賞受賞者の方々が「自分が興味の無いテーマを研究しているのなら即刻やめて、本当に自分が知りたいと思う現象を研究しなさい」「研究テーマを選ぶことは、もしかしたら研究そのものよりも難しいかも知れない」という趣旨のことを強調して仰っていました。本当に心から興味と情熱を持てるテーマを研究対象とすれば、例えその研究自体があまり上手くいかなくても、そのテーマを選んだ研究人生を後悔することは無いのかも知れません。自分の研究生活を見直すとても良い機会を与えて頂きました。

6. リンダウ会議への参加を通して得られた以上の成果を今後どのように日本国内に還元できると思うか。

会議期間中にリンダウ島の美術館で過去のリンダウ会議の模様を纏めた特別展が催されていたのですが、その中に一つ古い写真があり、近くによって詳しく見ると湯川秀樹先生と着物を着た奥様が映った白黒写真でした。写真を拝見させて頂いて、何故かは分かりませんが郷愁のような懐かしく嬉しい気持ちになると同時に、高度に発展した現在の日本の科学を初期から創り上げてこられた方々の歴史にしばらくの間、思いを馳せました。本会議に参加されている諸外国のノーベル賞受賞者の方々は勿論のこと、日本にも独自の分野を切り開き異国に向けて発信されてきた諸先輩が数多くいらっしゃるのだということを再認識することが出来ました。本会議に参加して得た研究への情熱を糧として、非常に微力ではありますが、自分でも日本発の研究を海外に向けて発信したいと強く願うようになりました。これからも日本発の研究を目指して邁進致します。

7. 今後、リンダウ会議に参加を希望する者へのアドバイスやメッセージがあれば記載すること。

リンダウ会議は通常の研究会議や学会とは内容も雰囲気も全く異なる会議です。30名近いノーベル賞受賞者の方達の講義を纏めて拝聴させて頂くことが出来ますし、勇気があれば一対一で直接ノーベル賞受賞者の方達と議論することも出来ます。このような機会は稀有だと思います。ノーベル賞受賞者の方々もこの会議に対して特別な思い入れがあるようで、皆様非常に情熱的に講演をされますし、Discussionでも研究も含めて様々な質問にとっても丁寧に回答されていました。また、夕食時などのインフォーマルな時間には積極的に若手研究者との交流を図っていらっしゃいました。日本/諸外国からの参加者も研究に対する情熱を持った方々ばかりであり、ノーベル賞受賞者の方達が講演中のメインホールは何とも言えない特別な雰囲気で満たされています。僭越ですが、是非多くの方にあの独特の雰囲気を味わって頂けたら、と思っております。応募に迷っている方がいらっしゃいましたら、是非一步を踏み出して応募して頂けたら、と思っております。